



同窓会会長
堀江 裕宗
平成15年3月 科学技術学部
応用情報工学科
(現:知能情報システム学科)卒

会長挨拶

早いもので卒業してから今年で15年という月日が経ちました。まだ我々の年代だと過去を懐かしむ事よりも、現在を邁進し、未来を見据え日々を過ごすことが多い年代と言えるでしょう。

そんな中、ふと学生時代に苦楽をともにした仲間たちは今どうしているのだろうか考える時があります。数年、十数年会っていない友人達、学生生活で散々お世話になった先生達、今でも鮮明に思い出せる記憶の中の人たちと「今」を話してみたい。「同窓会」とは本来そのような場を支援する事も大事なのではないかと考えました。

そして今回「同窓会正会員による交流会実施時支援」として少人数での利用も可能な制度を設ける運びとなりました。具体的な条件や手続きに関しては現在構築中ですので、詳細は後日同窓会ホームページにてお知らせ致します。

本会がさらに活発に活動していくには会員一丸となって盛り上げていく必要がございます。これを機に是非とも旧友との絆を再確認して頂ければ幸いです。

2018年3月現在 正会員数 8,776名



学生部長
同窓会監事
須藤 諭
科学技術学部
建築環境学科教授

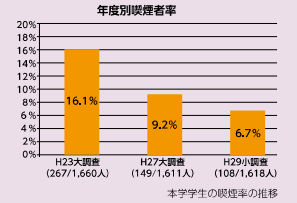
学生部長挨拶 東北文化学園大学全面禁煙の取り組みについて

同窓会の皆様、大変にお世話になっております。私は、平成30年4月に学生部長に再々任され、同窓会監事を引き続き務めさせていただくことになりましたので、よろしくお願いいたします。

さて、本学が全国の大学に先駆けてキャンパス全面禁煙に取り組んできたことは、よくご案内のことと思います。2007年にキャンパス全面禁煙に踏み切りまして、残念なのはキャンパス周辺地域での喫煙が報告されることが少なくなったため、2009年からは周辺地域も「禁煙推進区域」に指定し、グリーンキャンパスを目指すTBG+M(プラスマナー)運動として、教職員やSJによる巡回等を行いながら、禁煙指導を続けてきました。当初は、巡回しながらかなりの数の吸い殻を拾ったものですが、最近では激減しており、地域の方々から喫煙絡みの苦情を頂戴することはほぼなくなりました。

しかし、全面禁煙の取り組みの目指すところは、単に禁煙エリア内で喫煙させないことではなく、喫煙習慣を持たないようにしていくことが本質です。そこで、ここ数年は、健康管理センターのご協力をいただきながら、禁煙指導に取り組んでおります。禁煙啓発のポスターやビデオを作成し、学園祭では禁煙展示コーナーを設けました。そして2017年からは5月31日世界禁煙デーに合わせて、禁煙委員会と健康管理センターの主催イベントとして「禁煙キャンペーン」を行いました。

幸い、本学学生の実態調査結果では、喫煙率は平成23年度の16.1%から、平成29年度の6.7%まで減少してきております。今後も禁煙啓発に根気よく取り組んで参りたいと考えております。



輝人(キラリびと)特集!

同窓会は平成30年3月で設立してから15年目を迎えます。一つの節目として、活躍する卒業生の特集を組みました。各分野で活躍されている輝人を紹介いたします。



楽しむコト

科学技術学部 人間環境デザイン学科
(現:建築環境学科) 平成24年3月卒業
堀江 紗夕望



大学を卒業し早6年が経ち、現在シェルホームデザイン(地元山形の工務店)でインテリアコーディネーターとして働いております。主に内装設計・コーディネートの仕事をしております。それぞれのお施主様の要望に合わせて、施主様と一緒にゼロから創り上げていくという、とてもやりがいのある仕事をしています。

毎回違った提案になる分もちろん大変な事がありますが何事も楽しみながら取り組む事を念頭に仕事をしております。自分が出した物がカタチとなり、お引渡の際に施主様の喜びと感動に溢れた姿を見る事で、よりこの仕事の楽しさ・やりがいを感じられたい仕事へのモチベーションアップにつながっています。

昨年はレストラン併設の弊社新モデルハウスの担当をしまして、今までとはまた違った仕事ができたい事は、私自身の自信へとつながりました。今後は自身のスキルアップも図りながら、後輩育成にも力を入れて更に楽しみながら仕事をしていきたいと思っております。



精神科看護師として出来ること

医療福祉学部 看護学科
平成29年3月卒業
岩淵 摂



私は本学医療福祉学部看護学科卒業後一般社団法人 安田博愛会 安田病院に就職しました。最初は不安一杯で入職しましたが、先輩スタッフの皆様のご指導のおかげで現在では何でも任せて頂けるまで成長できたと感じることが出ています。一般状態の観察処置、手技はもちろんのことですが、精神疾患のある患者様はコミュニケーションを円滑にたれないことが多く、患者様自身が自分の症状をうまく看護師に伝えられないことも多いです。そのため、精神科で働く看護師に必要なのは、患者様の少しの変化に気がつく観察力や察する力が必要になります。精神疾患は完治が難しいために入院や通院期間が長引くことが多いです。そんな時でも、患者様が治療を根気強く続けられるように、精神科の看護師は患者様とじっくり向き合って信頼関係を築いていく粘り強さも求められます。そうして看護師が患者様との信頼関係を築くことができれば、患者様も安心して治療を受けることができます。患者様やご家族様からの「ありがとう」「あなたが居てくれて良かった」のお言葉がやり甲斐に繋がり、現在に至っています。日々勉強の毎日ですが、患者様に寄り添うことの看護師を曲げずにこれからも頑張りたいです。



プロの世界

医療福祉学部 リハビリテーション学科
理学療法専攻 平成19年3月卒業
小楠 和寿



私は現在、整形外科クリニックに勤務しながら昨年よりシーズン中は女子プロゴルフ選手のトレーナーとして、2名の韓国入選手と一緒に毎週ツアー帯同しています。今シーズンはオフに行われた1か月間のベトナム合宿にも帯同し、フィジカルトレーニングを中心に調整を行ってきました。

プロの世界では結果が全てなので、選手の成績に一喜一憂し、病院で働いているときは知合いに頼まないので守られているかと思いがちです。そういった意味での緊張感の中、選手が最高のパフォーマンスを発揮できるよう日々奮闘しています。その中で、先日「中京プリジストンオープン」でベ・キョング選手が初優勝を飾ることが出来、選手とともに喜びを分かち合うことが出来ました。

シーズン中は勤務先や家族の理解の上で自分自身の活動が出来ています。この部分への感謝を忘れずに、残りのシーズンも選手が最高の成績を残せるようサポートしていきたいと考えています。



現場で働くということ

医療福祉学部 保健福祉学科 保健福祉専攻
平成30年3月卒業
三川 莉沙



大学を卒業してから早いもので約3ヶ月が経ちます。大学生活4年目の冬、社会福祉士の国家資格受験まで残り1ヶ月を過ぎた頃、模擬試験で50点代を叩きつけたという私にも、無事に社会福祉士の国家資格を取得する事が出来ました。

私は現在、仙台市の特別養護老人ホームで介護職員として働いています。地元の人知人への話をすると、「阿波、社会福祉士の国家資格を持っているのに相談援助職として働かないのか」と言われることが多いです。その理由は、単純に行ってしまう相談援助職を目指す者として「現場」を直接見てみたいと考えたからです。

介護職員の業務は大変な事が多く、私は入居者の生活介助・介護支援は新しい事を覚える事が多く、入居者様に負担をかけてしまったり、業務の優先が入居者様の意思の尊重か、どちらを選ぶべきか悩むことも多くありました。現在も覚えていなければならぬ事は限りありませんし、入居者様の日常に聞かれるなかなか思い通りに行かない仕事ですが、個人的に入居者様や優しく厳しい先輩方の日常は、介護職員として働くという選択は間違っていないと感じさせてくれます。

この「現場」での経験が将来、相談援助職として働けるようになった時、より良い支援に繋がって行けるよう、これからも努力して行きます。



出来ること

医療福祉学部 リハビリテーション学科
言語聴覚専攻 平成30年3月卒業
齋藤 千帆



私は現在、主に神経難病の患者様に対してリハビリを行なっております。STが関わることの多い脳血管疾患の方が機能回復を目的に訓練を行うのに対し、神経難病の方は機能維持を目的とした訓練が重要だと考えています。徐々に進行していく疾患であり患者様は不安な気持ちが大いいため、その中で「私に出来ることは何か、ニーズはどこにあるのか」を常に考えるなくてはなりません。

STとして働き始め3ヶ月が経ちました。たくさんの患者様と関わってきましたが、訓練を行う中で自分に自信が持てず、今やれることを出来ているのかと考えることが多々あります。そんな時、患者様が訓練を楽しんでくれることや元気な姿で在宅に帰られること、ありがとうと言われることが何よりの救いです。少しずつ自信がついてくる実感があります。

食べること、話すことの障害に寄り添うSTとして自信を持って精一杯取り組めるよう、患者様と関わってまいります。



プログラマーとして、先生として。

科学技術学部
知能情報システム学科
平成29年3月卒業
古内 伽奈実



本学の知能情報システム学科を卒業し、仙台市内のIT企業へ就職しました。プログラマーとして入社して今年で2年目になります。が、まだまだ未熟な面が多く、勉強の日々です。

まだ先輩方を支えられている身ではありますが、今年度より小学生向けプログラミングクラブの先生としても仕事をしています。この分野の勉強をしたことがある人にとっては「当たり前」なことでも、初めて挑戦する彼らにとっては「意味不明」なことが多いので、教える側としては大変やがりのある楽しい仕事です。目の目標は、この教室の最後に「プログラミング楽しかった!」「もっとプログラミングしてみたい!」と思ってもらえるように先生を勉め上げることです。

プログラマーとして、先生として、まだまだやれることは沢山あると思います。これからを担っていく彼らの「未来作り」の助けけになれるよう、自分たちも負けずに頑張っていきたいと思っています。



作業療法とわたし

医療福祉学部
リハビリテーション学科
作業療法専攻
平成21年3月卒業
作間 弘彬



作業療法士10年目、人より遠回りをして作業療法士になった。作業療法が得体の知れないものと思えて、5年目の時には「作業療法士を辞めよう」と思った。そんな私も、今では作業療法の廣大。先日、私が生まれた年ぶりに日本の作業療法の定義改訂が行われ、作業療法士がより作業療法士らしく活躍できる可能性が拓かれた。悩みながらもたくさんの人たちの縁に活かせ、研究会の設立、学会シンポジウム、最優秀演題賞の受賞、セミナー講師等、在学中には想像もしなかった未来が現実になった。次は、論文投稿、国際学会での演題発表、そして次の10年を見据えた「しごと」への挑戦が待っている。望ましい環境の中で受動的に生きられるよりも、価値ある作業に熱中し、目標に向かって歩むことで、健康かつ幸福に生かされる作業的存在でありたい。そして、クライアントのココロとカラダが喜ぶ大切な作業に焦点を当てた実践で、貢献できることを今後も模索し続けていきたい。



大学病院×眼科診療所

医療福祉学部
リハビリテーション学科
視覚機能学専攻
平成28年3月卒業
熊谷 歩美



視能訓練士となり大学病院に就職して今年で3年目です。今春からは環境が変わり、平日の大学病院勤務に加えて土曜日の眼科診療所での勤務が始まりました。大学病院と診療所では業務内容が異なり、また、週1回のため慣れるまで戸惑いもありましたが、周囲の人に恵まれ今ではどちらの職場でも楽しく仕事をしています。

2つの病院で働くことにより、それぞれの病院でしか行えないことが経験できるようになりました。施設による考え方の違いが多くこのことを学び、視能訓練士としてのスキル向上につながっています。しかしながら、どちらの病院でも診断・治療に必要なデータを出すのが私の主な仕事であり、働く場所が違っても「目の前の患者さんに集中し全力を尽くすこと」「常に考えながら検査を行い正確な結果を導くこと」に変わりはありません。

日進月歩の医療へ柔軟に対応し、いつでも的確に検査ができるよう日々勉強です。今までの経験も生かしながら、これからも眼科医療に貢献していきたいです。